



TITLE:

静脩 Vol. 30 No. 3 (1994.1) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 30 No. 3 (1994.1) [全文]. 静脩 1994, 30(3)

ISSUE DATE:

1994-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66011>

RIGHT:

京大附属図書館所蔵の漢籍抄本

文学部教授 興 膳 宏

情報機器の発達につれて、紙に印刷されたものだけが書物という概念が崩れかけている当世だから、まして手書きの本などといえば、実感の湧かぬ向きも多いにちがいない。しかし、分かりきったことだが、かつて書物はみな書写されていた。書物の大量普及のために大きな転換点となる木版印刷が急速に普及していったのは、中国では宋代、日本でも鎌倉・室町時代以後のことである。

メディアの変化は、もとより学問の質にも影響を及ぼさずにはおかない。書物の大量普及によって、閉鎖的な少数の集団の中で伝授されていた学問は、いやおうなしにより広い世界へと押しだされていった。確かにその半面で、「版本の時代になって、書物の読みが雑になってきた」（『朱子語類』巻十読書）と朱熹が慨嘆するような現象はあっただろうが、よほど特殊な場合でないかぎり、印刷公刊された文献にもとづく学問のありかたが当然のものとして疑われなくなる。

さて、わが京都大学附属図書館の貴重書庫に蔵される数多い漢籍抄本のうち、平安・鎌倉抄本と推定されるごく一部のものを除けば、大部分は室町から江戸末期に至る時代の書である。いわば版本の時代に生まれた写本である。実はそこにこそこのコレクションの性格がよく表れている。ただし、ここにいう漢籍とは、中国撰述の書という狭義のそれだけではなく、漢籍の講義録を意味するいわゆる抄物や、中国古典に関連する邦人の著作などの準漢籍をも含むものである。これらの書は大まかに二つの種類に

分かつことができる。第一には、舟橋家旧蔵の清家文庫であり、第二には、近世儒者の稿本である。

まず清家文庫だが、そこに属する漢籍にはもちろん版本もあるが、その数はとうてい抄本の比ではない。長く天皇の待読を務めた、いわゆる「天師明経儒」だった舟橋家（清原家）に伝わる書物の多くが、天子への講授を前提とした、いわば秘儀的な性格を多かれ少なかれ持っている。たとえば寛文七年（1667年）の筆写になる白居易「長恨歌」の奥書には、清原経賢の筆で、「此一冊祖父被奉授法皇秘点也、今又予奉受」と記されている。すなわち「長恨歌」の本文に施された清濁点や訓点などは、安易に人に伝授することのできない「秘点」として、舟橋家の学問の重要な部分を占めていたことになる。だから「可秘可秘」と、子孫に対して特に慎重な扱いを求めた書物も少なくない。

「家秘朱墨点」を加えたと断り書きのある『大学章句』などには、おもしろいことに天皇への進講状況が、その眉欄に詳細に記録されている。筆写者は舟橋在賢で、その書きこみによれば、天保十年（1839年）十一月十二日から翌年五月十三日講義終了までの講義の進捗がよく分かる。講義はほぼ五日に一回のペースで行われているが、日によって進みかたの多いこともあれば、ほんの数行で終わってしまっていることもある。在賢の進講の相手は孝明天皇（1831-66）だったはずで、当時はまだ即位前の数え年九歳であった。幕末期の政治史に名を遺すこの天皇も、勉強に実が入らず先生に手を焼かせた幼

い日を持ったのだろうかと思像すれば、つい微笑ましくもなろうというものである。

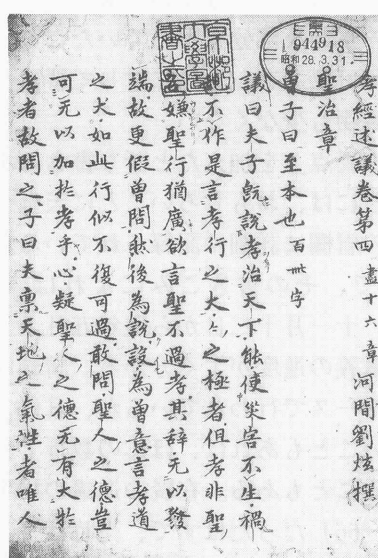
「長恨歌」や『大学章句』そのものは、広く流布していた普通の書である。秘儀は、その本文にはなくて、「秘点」にあった。舟橋家の博士たちは、祖先伝来の旧蔵本によってその秘儀を伝授する一方、ときには唐本を用いてわざわざ新たに抄本を作成し、それにヲコト点や訓点を加えてもいる。たとえば清原国賢筆と思われる『孫子』には、「永禄三年（1560年）十月五日、以唐本写之、加朱墨点了」の奥書が見える。室町期には清原宣賢（1475－1550）のような創造性に富む学者を出しながら、江戸期に入ると、その学問はもはや中世的方法を守るだけに終始した感を覆いがたい。だが、逆にいえば、だからこそ抄本というマイナーな形体が必要だったのであり、またそのゆえに中世的な学問の方法をよく今日に伝え得たともいえる。

清家文庫には重要文化財に指定される書が多く存するが、その中でも特に重要なものの一つに、『孝経述義』がある。『孝経述義』は、隋の学者劉炫の撰になる『孝経』の注釈書である。より詳しくいえば、孔安国伝の『古文孝経』、つまり古文学派のテキストにもとづく『孝経』に、漢の学者孔安国が施した注釈の再注釈書である。もと五巻からなったが、中国ではつとに失われ、長い間その所在さえ知られていなかった。『古文孝経』そのものも、完本は六世紀半ばに亡失し、近世になって日本から逆輸入されている。だから『孝経述義』は、中国においてまだにほとんど幻の書のような存在なのである。清家文庫には、全五巻のうち巻首及び巻四の部分が伝

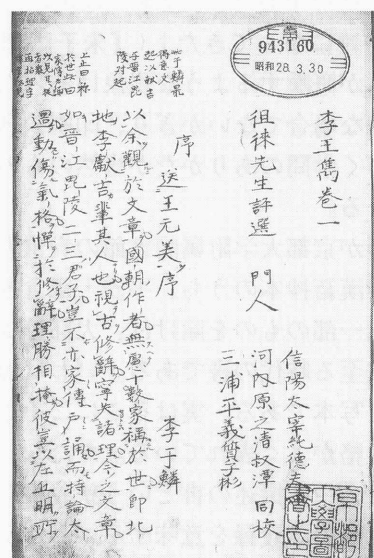
わっており、文字通り天下の孤本といってよい。劉炫という学者は、古書を偽造して罪に問われるなど、品性の面で欠けるところのあった人らしく、その著作はほとんど伝わっていないが、隣邦の博士家のもとで、彼の『孝経述義』が珍重されていたという事実は興味深いものがある。

話題を近世儒者の稿本に移すが、これは書物というよりは、むしろ原稿そのものといったほうがよい。その中で恐らく量的に最も多いのは、江戸中期の学者皆川淇園（1734－1807）の著作であろう。ただし、私の見たところでは、著述としてのまとまりをなした作品よりも、思索のための心覚えあるいは創作ノートといった性質の草稿の方が圧倒的に多い。絵画をよくしたといわれる淇園だが、草稿の中には、『周易繫辞伝図』や『成卦図』のように、経書の理解のために幾何学的な図形を用い、しかも朱藍等の色彩によって塗りわけた書冊が少なからず見いだされる。彼の哲学の研究者なら、これらの図形に相對することによって、その思索の過程をトレースすることができるかもしれない。

儒者の手になる珍しい書としては、荻生徂徠評選、太宰春台等校定、服部南郭筆写の『李王雋』（外題は『李王文鈔』）四巻が挙げられよう。これは彼ら古文辞学派が尊崇した明の擬古派の大家李攀龍・王世貞の散文のアンソロジーだが、一般にはほとんどその存在を知られておらず、『国書総目録』や『古典籍総合目録』にも著録がない。また江戸中期の本草学者稲生若水（1655－1715）がその生涯を賭けた大著『庶物類纂』の草稿もひときわ目を引く存在である。彼がめざした一千巻の著述は、結局三分の一



孝経述義



李王雋

強を完成したにとどまったが、うち鱗族・花族・木族・草族など百三十数巻分の草稿が保存されている。遺された草稿の最後の部分は、地方志や随筆類を含む膨大な中国古典の抜き書きによって占められており、若水の苦闘の跡がしのばれる。

最後に、上記の二系統とは全く異なる抄本を一点紹介しておきたい。それは『幼学指南抄』という一種の類書で、十二世紀中葉の成立と推定されるものである。この書はもと三十巻から成ったものらしく、そのほかに目録一卷が存した可能性もある。現在までに完本は見いだされておらず、ただ一部の古抄本の二十二巻分が、大東急記念文庫・梅澤記念館・陽明文庫、さらに台湾の故宫博物院等に分割して蔵されている。そのうち、大東急文庫・梅澤記念館所蔵の七巻分は、1979年に雄松堂書店から川瀬一馬氏の解説を付した影印の複製本が出され、また故宫博物院所蔵の八巻分は、1990年に東豊書店からやはり影印出版された。

川瀬氏の解説およびそれを襲った台湾本の解説では、巻七の部一・二ならびに巻二十二の巧芸部下・方術部・火部は「並河家旧蔵」と記されるだけで、現在の所在は明記されていないが、実はこの二巻こそが京大本なのである。昭和42年（1967）9月25日の受け入れ印がある。

『幼学指南抄』の書名については、これまでも指摘されているように、唐代の類書『初学記』に倣ったものであることは疑いない。単に書名だけでなく、その部立てや内容から見ても、『初学記』や

『芸文類聚』の関連項目をほとんどまるごと写し取った箇所がきわめて多い。しかし、同時にこの二書に全く見られない記事をも少なからず含んでおり、他にも出典があったことを想像させる。それが『太平御覧』のような後出の類書だったのか、それともさらに別の複数の書だったのか、いまのところまだ見当をつけかねている。『幼学指南抄』の内容を伝存分全体について検討してみることによって、この書を生んだ時代の学問のありかたまでが、おぼろげに浮かび上がってくるかも知れない。

以上は、この二年間にわたって私どもが行ってきた附属図書館所蔵漢籍抄本調査の過程で、特に印象づけられたことの走り書きである。その詳細はいずれ目録にまとめられるはずであるが、これらの貴重な文化財が将来有効に活用されることを願ってやまない。



幼学指南抄

資料紹介

本学教官等の寄贈図書を紹介します

本学の教官等より附属図書館が平成5年2月初めから12月末までに寄贈を受けた資料を紹介します。寄贈者の方々に改めてお礼申し上げます。

寄贈者名	書名
宮崎市定	宮崎市定全集 1, 4, 8, 16, 17, 18, 21, 23, 別巻 '93
小沢泉夫	応用地球物理学1：弾性波探査法 基礎編 '93
山元龍三郎	地球異常：気候激変時代への警告 '93 (以上名誉教授：退官順)

小島啓邦	演劇の魅力：明治・大正・昭和の東西演劇 小島元雄著 '92
佐藤康彦	ヨーゼフ・ロート小説集 3 '93
野村 修	ドイツの詩を読む '93
中埜芳之	ケラー作品集 第1～5巻 '87-'92 ドイツ人の日本像：ドイツの新聞に現われた日本の姿 '87 こねこのシュピーゲル（ドイツリアリズム文学1） '83
芦名定道	宗教学のエッセンス：宗教・呪術・科学 '93
北川善太郎	民法総則（民法講要1） '93 物権 （ク 2） '93 債権総論 （ク 3） '93

債権各論 (ク 4) '93
 Wege zum japanischen Recht. '92
 川那部浩哉 地球共生系とは何か (シリーズ地球共生系1) '92
 田端 守・本多義昭
 A Report on Traditional Medicine
 and Medicinal Plants in Turkey
 (1990, 1991). '93
 上田暁亮 The Road to Chaos. '92
 土岐憲三 The Great Earthquake in Japan, 1891.
 (Second Edition) by J. Milne &
 W. K. Burton 複製版 '93
 濃尾震災地写真 (34枚) 複製版 '93
 西村博行 Agriculture in Urbanizing Areas:
 Conflicts and Ways Towards
 Harmony- Southeast Countries
 and Japan. '92
 中村重久 International Who's Who of
 Intellectuals. Tenth Edition.
 '93
 文学部国史研究室
 京都大学文学部博物館の古文書 第10
 輯: 葛川明王院文書 '93
 同 第11輯: 永昌記紙背文書 '93

文学部博物館
 紫金山古墳と石山古墳 (京都大学文学
 部博物館図録第6冊) '93
 人文科学研究所
 法的思考の研究 山下正男編 '93
 家族・世帯・家門: 工業化以前の世界
 から 前川和也編著 '93
 「満洲国」の研究 山本有造編 '93
 中國中世の文物 礪波護編 '93
 あるドイツ語教室の歴史の会
 Durst あるドイツ語教室の歴史 '93
 農学部創立70周年記念事業会
 京都大学農学部70年史 '93
 京都大学学術出版会
 実践宗教の人類学: 上座部仏教の世界
 田辺繁治編著 '93
 スラッファ経済学の現代的評価 菱山
 泉著 '93
 ニューディール政治秩序の形成過程の
 研究: 20世紀アメリカ合衆国政治
 社会史研究序説 紀平英著作 '93
 (図書受入掛)

ご存知ですか? 一雑誌及び特殊資料の利用一

雑誌と特殊資料は、3階北側にある雑誌・特殊資料掛の担当です。本館の雑誌関係では、学内バックナンバーセンターや、国内の理工系外国雑誌センターの活動が特徴と言えます。また、特殊資料関係での特色は、重要文化財を含む多くの貴重書や、国内でも3機関しか所蔵していないHRAF資料です。以下にこれらを含む資料の閲覧や利用について簡単に紹介します。

詳細は、利用案内や1階ないし3階のカウンターでお訊ね下さい。

1) 雑誌

外国の雑誌、国内の雑誌、紀要類、逐次刊行物 (年鑑、白書など) など、購入したものに限らず、寄贈されたもの、交換によるものなどの資料が含まれます。受付の済んだ資料は、ラベル装備などをし

てから書架にならべられますので、利用される場合は直接書架に行くか、1階カウンターで手続きをとることになります。

平成5年度に購入している、和雑誌は254タイトル、洋雑誌は1,107タイトル、また寄贈、交換などで受け入れている和雑誌、紀要類が2,475タイトル、外国雑誌 (中国語、ハングルなどを含む) が325タイトルとなっています。

購入洋雑誌の内訳は、外国雑誌センター館 (注) の理工系の雑誌が9割ほどを占め、残りは図書館情報学関係の雑誌などとなっています。この中の理工系雑誌の中から14点を選び、目次や抄録などを光ディスクに入力し、そのデータを宇治地区の端末画面から学内LANを経由して見ることのできるEFS (電子ファイリングシステム) サービスを試験的に行っています。

地下書庫にあるバックナンバーセンター（BNC）は、全学的な書庫スペースの有効利用をするために、学内の雑誌のバックナンバーを集中的に管理するものです。もちろん、学内のすべてのバックナンバーが揃っているわけではありませんが、現在約8,700タイトルが収納されています。

（注）外国雑誌センター館

国内における学術的な外国雑誌の網羅的な収集のために、昭和52年度から文部省によって始められた制度。理工学系、医学・生物学系、農学系、及び人文・社会科学系の4分野に別れ、京都大学は昭和62年度に理工学系のサブセンターに指定され、理工学系のセンターである東京工業大学と連絡をとりながら、国内未収誌を中心に精力的に収集している。



2) 特殊資料

特殊資料には、マイクロ資料、AV（Audio Visual）資料、学位論文、貴重図書、HRAF 資料などが含まれます。

（1）マイクロ資料

マイクロフィルム、マイクロフィッシュ形態による、図書（貴重書を含む）、雑誌、新聞などがあり、5台のリーダープリンターによるサービスを行っています。なお、これらのリーダープリンターは原則として、附属図書館にあるマイクロ資料を利用する場合に限り使用できます。

（2）AV（Audio Visual）資料

語学テープを中心に、英独仏露中日、手話等のほか、ビデオが約30種類、カセットが24種類あります。これらのテープは3階のAVブースで利用します。なお、AVブースでは図書館のテープに限り利用できます。

（3）学位論文

京都大学で博士号を授与した学位論文約2万3千件余りを保管しています。利用する場合は前もって申し込んで下さい。複写する場合は、部分複写を除いて著者の許諾が必要です。

（4）貴重書

附属図書館で貴重書扱いされているもの（絵図、器物なども含む）は、2万点以上あり、これらは地下の貴重書庫に保管されています。利用する場合は事前に閲覧願いを提出することになっております。院生、学生などの場合は指導教官の理由書が必要となります。貴重書の中には、重要文化財に指定されているものが39種類、170点ほどあります。これらは、原則として原本の利用はできませんので、マイクロフィルム、あるいは複製本を利用します。

なお、これらの貴重書の一部は、例年行われる附属図書館の展示会で一般公開されているばかりでなく、学外の公的機関（博物館など）の展示会などに貸出する場合があります。

（5）HRAF 資料

HRAFとはHuman Relations Area Filesの略で、比較文化の観点から、世界の諸民族、諸地域の社会を対象に実証的な研究業績（図書、雑誌等）を集め、該当する頁を1枚づつに分解し、それらをHRAF独自の分類表によって体系的に整理したものです。京都大学は1962年にHRAFの正式メンバーとなり、アメリカのエール大学に置かれている本部から継続的に資料が送られてきます。文化人類学をはじめとした研究に大いに役立つ資料といえます。

（雑誌・特殊資料掛）

お知らせ

オンライン目録検索サービスを拡大します

本館は本年1月、図書館専用の汎用電子計算機を

更新しました。詳細は次号に紹介しますが、これを機会にオンライン目録検索（OPAC）サービスを、

下記のように拡大しますのでご利用下さい。

1) 館内検索端末の増設

検索端末にノートブック型パソコン10台を増設しました。うち4台は、従来のものと同様にカード目録室に固定して設置します。残りの6台は、カウンターで貸出をして、所定の場所でご利用いただくものです。

今回、1階参考図書コーナーの西南角、および2階ロビーラウンジの大型本コーナーの壁際の一角に、それぞれ「情報コンセント」を新設しました。6台の貸出用パソコンは、この「情報コンセント」に接続して使用します。

「情報コンセント」は、電気のコンセントが電流を流すと同時に、通信回線に接続して情報を流すものです。回線は、本学のK U I N Sに接続していますので、将来的には、本館のオンライン目録検索だけでなく、国内外のパソコンやワークステーションとの通信もできるようにする予定です。また、ワープロや表計算などのソフトも順次利用できるようにする予定です。

検索端末の利用は、2月から開始しますが、当面は試行運用となります。詳細については、館内に掲示しますのでご覧下さい。なお、パソコンの貸出は参考調査カウンター（7番）で行います。



2) UNIX ワークステーションからの検索

本館の目録データベースは、平成2年10月に学内の研究室からの検索が可能になりましたが、UNIXワークステーションでは利用できませんでした。今回、これを可能にするため、新たにゲートウェイ装置を設置しました。

これは、4月より運用を開始する予定ですので、接続方法などの詳細が決まり次第、各部局にお知らせします。

(参考調査掛、システム管理掛)

全国大型コレクションをご案内します

下記の大学図書館より、平成4年度全国共同利用資料（大型コレクション）について利用案内がありましたので、お知らせいたします。

なお、内容明細のある資料につきましては、本館の参考図書コーナーに、その紹介パンフレットを備え付けておりますのでご覧下さい。

・愛媛大学附属図書館

「Foreign Relations of the United States (アメリカ国務省外交文書)」 *内容明細あり

・金沢大学附属図書館

「国際法研究文献コレクション (International Law マイクロフィッシュ版)」 *内容明細あり

・島根大学附属図書館

「JURIS-Classeurs (フランス法令集) Editions Techniques S.A. -FR-」 *内容明細あり

・弘前大学附属図書館

「有価証券報告書総覧 平成3年度」

・北海道教育大学附属図書館

「マイクロフィルム版物語文学書集成」 *内容明細あり (=北教大図書館報 第53号)

(参考調査掛)

「図書館の達人」(ビデオ) パート2を購入しました

昨年度購入したパート1は本誌でも紹介しましたが、「図書館の機能」、「文献検索の基礎」、「雑誌記事の調べ方」の3巻で構成されており、利用者の方々ばかりでなく図書館職員の方々からも好評をいただいております。

今回購入したパート2は、第4巻「人名情報の探し方」(24分)、第5巻「データベース検索入門」(25分)、第6巻「レポート・論文のまとめ方」(28分)という構成になっており、パート1と合わせて学習や研究に図書館を活用するための技術を、具体的事例を疑似体験しながら学べる内容となっています。

利用を希望される方は、3階の雑誌・特殊資料カウンターにお申し込み下さい。

(雑誌・特殊資料掛)

春季休暇中の長期貸出を行ないます

開架図書 3月17日(木)～29日(火)

書庫内図書

院生・教職員

3月1日(火)～11日(金)

学部学生

3月17日(木)～29日(火)

返却期限日はいづれも

4月13日(水)です。

(資料運用掛)

3月で卒業・修了される皆様をお願いします

現在図書を貸出中の方は、図書の最終返却期限日の3月12日(土)までに、必ずご返却ください。

附属図書館への入館・資料の閲覧は3月末まで可能ですが、貸出の最終日が、開架図書は2月26日(土)、書庫内図書は2月25日(金)となっていますので、ご注意下さい。

(資料運用掛)

報

告

平成5年度附属図書館展示会「京洛出版の軌跡－五山版、古活字版、八文字屋本－」ならびに併設展「古典籍の修復と複製」

附属図書館では、平成5年度展示会を平成5年12月1日(水)から12月10日(金)まで、日曜日を除く9日間、本館展示ホールで開催しました。今回は、平成6年の平安建都1200年を前にして、中世から近世にいたる京都における出版の歴史に焦点をあわせました。

日本における本格的出版の始まりともいわれる鎌倉時代からの五山版ならびに寺院版、安土桃山時代にヨーロッパあるいは朝鮮などから伝わった活字印刷技法を利用した古活字版、江戸時代に浮世草子の出版で一時代を画した京都の書肆八文字屋による八文字屋本という三つの柱を中心に、附属図書館、文学部、人文科学研究所、医学部、総合人間学部などで所蔵する貴重な図書の他、南北朝時代の版木や、徳川家康の命によって作られたといわれる円光寺版の木活字など160点余りを展示し、学内外に広く一般公開しました。

また併設展では、修復の済んだ貴重書の例として、重要文化財に指定されている清家家学書『易学啓蒙抄』一点を展示し、貴重書の複製の例として、歌舞伎の起源を研究する上で貴重な資料とされている『國女歌舞妓繪詞』の原本、昭和26年の複製本、および平成5年の複製本の三点を並べて展示しました。また、未修復の貴重書の例として、平安時代に筆写されたといわれる『幼学指南鈔』を展示し、古典籍の修復や複製本の作成は、それら資料の保存と利用の両立を図るためにも、緊要な方法の一つであることへの理解を求めました。

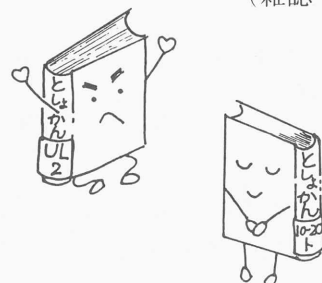


展示会は連日賑い、合計959名の入場者があり、ホールでは日頃なかなか目にすることができない貴重な資料に入場者は熱心に見入っていました。

12月7日(火)には、本学の濱田啓介総合人間学部教授による「本屋と草紙屋」と題する講演会が本館A Vホールで開かれ、一般市民ならびに教職員、学生など、定員をはるかに上回る151名が熱心に聴講しました。

今回の展示会は、本館の所蔵資料だけでなく、学内各部局の貴重な資料をお借りして、開催することができたものです。また、総合人間学部の浜田啓介教授には、ひとかたならぬご指導とご協力をいただきました。あわせ記して、厚くお礼申し上げます。

(雑誌・特殊資料掛)



図書館の動き

商議会の開催

附属図書館商議会（平成5年度第2回）が平成5年12月22日、附属図書館大会議室で開かれ、本年度の実行予算や、文系図書室の扱いなどが協議されました。

展示会の開催

本誌でも報告しているように、平成5年12月1日から10日にかけて、平成5年度展示会「京洛出版の軌跡」が附属図書館展示ホールで開催され、盛況のうちに終了しました。また、12月7日には濱田啓介総合人間学部教授による講演会「本屋と草紙屋」が近畿地区国公立大学図書館協議会講演会として開催されました。

日米ワンデイセミナー・第13回大学図書館研究集会報告集の刊行

平成4年10月12日に、京都外国語大学で開催された標記セミナーの報告集『21世紀に向けての大学図書館』が刊行されました。セミナー参加者（報告集申込者）には既に発送しましたが、一般の方々は日本図書館協会から定価2000円で購入することができます。

なお、平成5年11月19日には標記セミナーの残務整理委員会が開かれ、会計監査を行うとともに、報告集の刊行や発送などが報告されました。本セミナーに関する委員会はこれですべて終了しました。

目録業務システム専門委員会の開催

本学を主査とする標記委員会が、平成5年7月に設置

されて以来、2回の委員会（第1回：8月31日、第2回：12月10日）が本学で開催されました。近畿地区6大学に所属する8名の委員によって目録業務に関する諸問題が討議されました。

NACSI S-I R講習会の開催

平成5年9月7日、8日の両日NACSI S-I R講習会（地域講習会）が、学術情報センターと本学附属図書館との共催により開催され、6大学から10名の受講者がありました。

目録システム講習会の開催

平成5年10月4日から8日にかけて目録システム講習会（地域講習会）が、学術情報センターと本学附属図書館との共催により開催され、6大学から10名の受講者がありました。

外国雑誌購入にかかる諸問題についての懇談会の開催

平成5年12月7日、近畿地区国立大学附属図書館の事務（部）長、課長、実務担当掛長等、14大学38名が出席して、標記の懇談会が、附属図書館大会議室で開かれました。

この懇談会では、会計実地検査等で指摘を受けた、外国雑誌購入の際の競争原理の導入について、まず各大学から現状報告が行われ、その後、実施に向けての見積合わせや入札等の購入方法、競争原理導入のメリット、デメリット等について種々の意見交換が行われました。

目次

<巻頭記事>

京都大学附属図書館所蔵の漢籍抄本……………1

<資料紹介>

本学教官等の寄贈図書を紹介しします……………3

<お知らせ>

オンライン目録検索サービスを拡大します……………5

全国大型コレクションをご案内します……………6

「図書館の達人」（ビデオ）パート2を

購入しました……………6

春季休暇中の長期貸出をします……………7

3月で卒業・修了される皆様にお願ひします……………7

<報告>

平成5年度附属図書館展示会「京洛出版の

軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本—

ならびに併設展「古典籍の修復と複製」……………7

<図書館の動き>

商議会の開催……………8

展示会の開催……………8

日米ワンデイセミナー・第13回大学図書館

研究集会報告集の刊行……………8

目録業務システム専門委員会の開催……………8

NACSI S-I R講習会の開催……………8

目録システム講習会の開催……………8

外国雑誌購入にかかる諸問題についての

懇談会の開催……………8

<その他>

ご存知ですか？—雑誌及び特殊資料の利用—……………4

後記

年が明けるごとに、ふるさとの野山を駆けめぐった子どもの頃の事を思いうかべる。

秋も深まった田んぼの中で、粃をおとした稲わらで家を作ったり、焼いてある粃がらの小山の中から白くはじけた粃を拾って食べたりしたこと。クリスマスの朝、枕元に凧やこまが置いてあり、その凧に新聞紙を細く切ったしっぽを長くひっつけて、学校のグラウンドで凧上げを

した。平屋の屋根から落ちて斜面になった雪の上で、父や叔父の軍隊時代の重たい大きなスキーで遊んだこと。一年中、田んぼや川や山を相手に、弟や近所のお兄さんや学校の友だちと、太陽の恵みを身いっぱい受けて、ころげまわっていた。

今、そんな時代をととても懐かしんでいる。（末）

京都大学附属図書館「静脩」Vol. 30.No.3（通巻111号）1994年1月25日発行 編集：静脩編集委員会

（責任者 附属図書館事務部長） 発行：京都大学附属図書館 京都市左京区吉田本町 ☎075-753-2613